

# 北鹿の学び舎から

2021-2022

OB、在校生、学校の今 ⑬

# 2021コラム連載を終えて

秋田職業能力開発短期大学校

校長 後藤 康孝

人は、なぜ学ぶのでしょうか。それは、生きるため、成長するために備わった、人間としての進化の結実であると思えます。学ぶことで「わかる」「そして「できる」を体験すると、楽しい、嬉しいという心地よい感情を褒美として

与えられ、学びを継続させるように仕組みられているものと考えます。今回、ご紹介した卒業生の皆さんも様々な形で学びを継続し、個人としての成長に留まらず、企業等の組織としての知財に、そして地域、社会としての智慧に結びつける、

現在、国の重要施策として、

人間社会としての学びを体現しておられました。

今回のコラムの初回に「職業人としての真の生きる術は、この学び続ける姿勢とそれ考へ抜く力である」と考へており、(中略)当大学校では、その習得の促進を図っています。」と述べましたが、それを卒業生の皆さんに証明していただいた形になり誇らしく思っています。

今後のデジタル技術の進展による新たな社会構造であるSociety 5.0の到来等を見据えた、リカレント教育という社会人の学び直しのための多様な支援策を展開しています。生きる術を習得した者は、あらゆるものを学びの対象にできますので、社会の動きと自己分析を冷静に行い、適切な題材による学びの継続、学び直しを期待します。

当大学校でも、技能・技術の習得を目的とした短期間の「能力開発セミナー」を年間50コースほど展開し社会人の学びを支援しています。また、大館市も「大館学び大学」という新たな社会人教育システムを運営し始めています。学びは人間の本能です。読者の皆さん、積極的な活用をお勧めいたします。

結びに、この度の連載に当たり快く取材に応じていただいた方々及び掲載を継続していただいている北鹿新聞社様には、この場をお借りして深く御礼申し上げます。



校長 阿部 等

秋田県立鷹巣技術専門学校(テクノスクール鷹巣)

今年度のコラム「北鹿の学び舎から」では、本校からは自動車整備科、住宅建築科、建設機械運転科の3名の修了生の方々を紹介させていただきました。

ただけだと思えます。さて、本県は人口減少・少子高齢化が全国よりも速いペースで進んでおり、県内企業が持続的な発展を遂げるためには、それを支える人材の育成が不可欠となります。また、デジタル化が急速に進んでおり、IoTやAI等の先進技術は、あらゆる産業においてニーズが高まると予想されます。

修了生の皆さんには、在校中の思い出や現在の職場で活躍している様子を寄せていただき、本校で学んだ実践的な内容が確実に生かされていることを読者の皆様に感じて

こうした状況を踏まえ、第1回のコラムでご案内いたしましたとおり、県立技術専門学校では、第11次秋田県職業能力開発計画に基づき、定員の見直しや訓練科の再編とともに、先進技術分野の知識や技術等を学ぶためのカリキュラムを取り入れ、令和4年度から新たにスタートすることになりました。

本校については、高等学校卒業以上の方を対象とした訓練科の定員を見直すほか、中取り組んでまいりますので、学校卒業以上の若年者を対象とした2年課程の建築工芸科

を若年者及び離職者を対象とした1年課程の木造建築科として再編することとしました。また、各訓練科では、先進技術や資格取得に関する新たな訓練カリキュラムを追加して時代のニーズに対応することとしています。県立技術専門学校では、今後とも秋田の産業を支える人材を育成するとともに、地域の皆様と連携した様々な事業に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。